

後期 終講にあたって

1年間、共に励んできました。これから学習如何で、合否も大きく変わります。折角ここまでやってきたのに、不合格の方に傾いてしまうのは、何としても避けないといけないので、お配りします。

終わりではない！これからが勝負！

定員から一名でも漏れると不合格であること、日々順位が変動していることに注意する。終わった、ではない！今日の気の緩みのせいで、数人抜かされることを忘れてはいけない。

絶対諦めないこと

まだまだこれから変わる。本番では何が起こるかわからない。数学は「見える」「見えない」が大きく点数に影響する科目である。もしかして本番「見え」て、他人が本番「見えない」かもしれない。最後まで諦めないこと。

逃げないこと

目の前の「やった方が良い」と言われていることから逃げているから、思うように成績が上がらないのである。アドバイス(=最短ルート)を素直に聞き入れると良い。妙な自信をもって判断するのは、結局逃げているだけである。逃げると効率は悪くなるので成績が下がる。それを認めたくないから人のせいにする。悪循環である。

油断だけはしないこと

A判定でも2割落ちることを忘れないこと。E判定でも2割受かるのを忘れないこと。E判定の人は、ただ、がむしゃらにやるだけだが、特にA判定の人は油断しないこと。その油断で、今まで何人の涙を見てきたか。

後期教材の復習を一日も早く終わらせること

予定を立ててみるといい。本番まではそんなに時間はない。まずは後期教材の復習を終わらせよう。難しいからと言って他の問題に逃げないこと。テキストに載せているのは合格に必要な問題だからである。

過去問を徹底的にやること

「過去問を少ししかやりませんでした」なんて、大学(や共通テスト)を侮辱している。精一杯多く取り組むこと。「〇〇年分だけで良い」なんて言う声は無視すること。共通テストはセンター試験を参考に作るはずである。甘い言葉には流されないこと。甘い言葉を言う人は、不合格の惨めさを知らない人である。

他の問題に使える共通の基本事項に戻ること

過去問を多く解いたがあまり成績が伸びない人は、「1問から多くを得ていないのである。過去問から、如何に「他の問題にも使える事柄を得るか」にかかっているのである。教科書や参考書、ポイント集に戻って類題にあたることを無駄と思ってはいけない。量をこなすことより質を高めることが大事なのである。

必死になること

世の中そんなに甘くない。将来もっと大変な障害がいくつもある。その時に崩れてしまわないように、今、修行をしているのである。我慢を知ること。忍耐を知ること。限界ラインを引き上げること。最大の敵は自分である。「人に負けてもよい。でも自分には負けるな。」